

キャンパスを歩き、街を訪ねる。

かばん一筋、戦前から四代続かばんの老舗「吉田屋」を吉田先生と覗く。

四代目、かばんのお医者さん

有限会社 吉田屋

本 郷通りと言問通りがぶつかった本郷弥生交差点、その西の一角に「かばんのお医者さん」があるをご存じだろうか？ 年季の入ったウインドウ越しに機械を操る職人の姿が見える。

店の名は吉田屋。昭和22年に本郷三丁目で開業し、昭和56年にここ西片二丁目に移った。現在の店主は三代目、吉田繁夫さん。一代目は繁夫さんの祖父にあたる人で、本所あたりで商売を始めたらしいが、詳細はつまびらかではない。昔、そのあたりには革のなめし職人が大勢いた。

二代目は繁夫さんの父、善四郎さん。戦前戦中には軍隊用のかばん「^{ずのう}函囊」などを扱い、戦後は厳しい物資統制のなか中古かばんの販売と修理で商いを盛り立てた。

繁夫さんが店を継いだのは昭和45年頃。精密機械メーカー用の埃の入らないかばんやテレビ局用のジュラルミン製トランクなど特殊品を手掛けて評判を得、山中伊知郎著「職人になるガイド」(新潮社)の「かばん修理職人」にも取り上げられた。

外務省から突然ジュラルミン製トランクの大量発注を請けたこともある。そのときは理由がわからなかったが、後で新聞を見てサイゴンが陥落したことを知った。大使館の資料の運び出しに必要だったのかもしれない。

「農学部のお客さんも多いですよ」と教えてくれたのは四代目、^{まさし}匡史さんだ。商売以外にも家族の付き合いがあり、匡史さんの奥さんと生圏システム学専攻の吉田薫准教授は、地元のバレー



右から吉田匡史さん、吉田薫准教授、吉田繁夫さん

ボールクラブのチームメートだという。

今後の抱負について訊くと、匡史さんは全国展開のビジョンを語った。お気に入りのかばんを直したいニーズは多いが、吉田屋を知っているひとは限られている。しかし、インターネットを使えば修繕を求める全国の声に応えることができるというのだ。実際、携帯電話からかばんの写真を送ってもらい、修繕の見積もりをするサービスなどはもう始めている。

「できるだけたくさんのかばんを診て、治せるものはみんな治してあげたい」と匡史さんは自信ありげに微笑んだ。

Information



◎お問い合わせ

有限会社 吉田屋

住所：東京都文京区西片2-25-9

電話：03-3811-3290

営業時間：8:00～18:00 (定休日土日祝)



URL

<http://www1.tcn-catv.ne.jp/yoshidaya/>



二代目 吉田善四郎さん